

三島通庸を大河ドラマの主役に



令和3年6月6日「山形県初代県令三島通庸をNHK大河ドラマに推薦する米沢市万世会」会長 梅津幸保 が設立されました



初代県令 三島通庸とは

明治9年に置賜県・山形県・鶴岡県が統合されて統一山形県となり、初代県令となった三島通庸は道路改修を行うのが第一番目として、最優先で県内の道路整備と、隣県へ通ずる馬車道として峠道の開鑿新設・橋梁新設に精力的に取り組む、現在の山形県の道路ネットワークの原形ができました。加えて、殖産振興の面ではサクランボに代表される果樹や養蚕の指導、鍛冶・工業等の職業指導に精力的に関わり、山形県内の産業振興を牽引しました。その中でも特に東京・福島と米沢を結ぶ栗子新道開鑿工事の栗子山隧道は、当時日本に例のない長さ5、5年の山形県令在任期間のすべてを費やして完成に導き、明治14年10月に明治天皇が御巡幸の際に開通式に御臨

米沢市万世会とは

山形県には有名著名人物が多く輩出されましたが、明治維新の日本国として重要な転換期に山形県の実情を憂い、大きな社会資本を蓄積するための予算確保と実行力を持ち前の大きな胆力で進めた三島通庸を、萬世大路保存会役員有志が主となり、万世地区を中心とした108名の同意者によって会の設立を迎えました。今後は万世会から情報を発して近隣の有志を募り、まずは市内・県内・隣県で三島通庸の知名度を高め、少しずつ大きな波にしていずれは全国放送を目指していきます。

三島通庸は、これまでNHKの「ライバル日本史」で1994年（平成6年）9月1日に鬼県令 東北開発に挑む三島通庸と河野広中として放

第30号
令和3年8月1日発行
発行 歴史の道 土木遺産萬世大路保存会
会長 梅津幸保
事務局 万世コミュニティセンター
☎0238-28-5381
題字は村山道雄元山形県知事

映されました。民権論者の林友幸、前島密、勝間田稔らは、三島通庸の国家に対する考え方に共鳴し、その後に深い親交をかさねたが、かつて福島事件で逮捕され、辛酸をなめた自由党の領袖河野広中も、その一人であった。後日談として三島通庸のお子様語られたこととして、

「お父さまが亡くなられた後のことですが、家の近くで大火があったとき、一番に見舞いにかけて来られたのは河野広中さんでした。福島事件では、河野さんはお父さまに牢屋にブチ込まれたのだから、お父さまは憎らしい相手の筈ですが、その後何かに肝胆相照らす仲とられたということです。『異常はありませんか。何か困ることがあったらお力になります。』と、河野さんは、お母さまや私たちに、親切に言ってくださいましたよ。」

福島事件で河野広中の福島自由党を壊滅に追い込んだ三島通庸と河野広中との間にその後どのような親交があったか記録が見当たらないようですが、国家観や人物像に共感するものがあつたのではないのでしょうか。万世会では、地元のテレビ局から短い番組制作をしていただくなど、それをテコに知名度アップしたいと思っております。また、市教育委員会から作成していただいた『萬世大路副読本』を小中学校で大いに活用していただくことも大事かと感じております。